

## 第2回狩野川流域委員会（意見交換会） 議事要旨

日時：平成28年1月26日（火）16:25～16:35

場所：函南町役場 4階特別会議室

### 1. 挨拶

中部地方整備局沼津河川国道事務所長  
狩野川流域委員会 田中博通委員長

### 議事

#### (1) 質疑及び意見

- ・ 現行整備計画による事業は着実に進められている。  
河道内樹木や堆積土砂の問題や修善寺橋下流の流下能力が不足している問題はどうか、他の委員とともに議論したい。
- ・ 狩野川流域は湛水被害が最も深刻な問題である。とくに農業を守る観点から、いちごの産地である伊豆の国市江間地区の洪水被害は大きな問題であり、流出解析をどうするか問題である。  
狩野川、来光川、大場川の解析に力を入れるべき。
- ・ 河川堤防の管理に着目したい。堤防には管理用道路や一般道路として占用されているものもある。観光地である伊豆地域では無味乾燥な堤防管理ではなく、安全な堤防の管理、道路機能を持った堤防の管理、景観の管理について議論をしていきたい。
- ・ 狩野川流域では、最近水害が減り、水の流量も少ない。よって、過去の基準で整備計画を検討すると過大になる。狩野川は安全性が高まっているので、環境や生物にとっての川の姿を念頭に整備計画の変更を検討すべき。また、川を利用する人の立場を考えて合意形成すべき。
- ・ 防災の投資は、想定被害額に相当する防災投資は実施して良いとの考えがある。  
しかし、日本は災害が多い国であるので、全部計上すると予算が不足する。  
伊豆市瓜生野地区の事業が現行の整備計画から漏れているとの話だが、資産価値は小さくても、国はそういった箇所でも事業を実施していくのが役割としてある。

#### (2) 今後の進め方について

- ・ 第3回の流域委員会では、3月4日に現行の整備計画の課題及び対応方針についての検討を行いたい。今回の視察や前回の委員会での点検を踏まえ、委員の皆様から整備計画を変更する必要があると判断を頂いた場合には、第4回以降の委員会にて整備計画の変更を検討していきたい。